

国際文化学科 ディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP) 及びアセスメント・ポリシー

DP		CP 編成方針	アセスメント・ポリシー			
第一層	A	幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。	西南学院の建学の精神に基づき、西南学院大学学則第一条に定める目的を実現し、学生が卒業認定・学位授与方針に定める資質・能力を身につけることを目指して、正課においては、大学教育における共通基盤及び教養の育成のための共通科目群、学位課程プログラムの基幹となる専門科目群によりカリキュラムを編成する。 育成すべき資質・能力に照らし、その内容・順次性を吟味し、体系的に科目を配置する。なお、主に「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の育成に寄与する科目は、「総合的な経験・創造性」に寄与する科目に先行するよう配置し、主に「態度・志向性」の育成に寄与する科目は4年間にわたって配置する。	卒業認定・学位授与の方針に示す質的水準の達成状況である学生の学修成果としての各資質・能力については、下表に定めるとおり、各授業科目の到達目標に対する学修者の到達度について実施されるDP観点別評価の結果を集約するとともに、本学が定める大学のアセスメントマップに示す各種調査などを必要に応じて用いることによって、その修得状況を把握し可視化する。 また、本学科の教育内容・活動については、把握・可視化した学修成果をふまえ、アセスメントマップに示す各種調査などを用いることで、多角的に検証する。 その検証結果は、自己点検・評価活動やFD活動において、本学科の教育改革・改善に資するよう活用する。		
	B	学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。				
	C	地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参画・貢献することができる。				
	D	自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を身に付けている。				
第二層 (共通科目)			学修成果を測定する方法			
	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会現象を多面的に理解することができる。	主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別および全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。	主要科目 教養科目	
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別および全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。	外国語 データリテラシー スタディスキル ヘルシテラシー	
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別および全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	ライアデザイン応用	
D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探究し続けることができる。	ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト、研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別および全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	キリスト教 ライフデザイン基礎 西南学院史		
第三層 (専攻科目)				A	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別および全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験の結果についても活用する。	
	A-2	多様な文化に関する基礎知識、およびその歴史的・思想的背景に関する幅広い教養を修得している。	大学での学修の前提となる基礎知識と教養を身につけるための文化論部門科目、学部での学修に共通する諸分野について理解を深めるための学部共通部門科目、および資格取得等のための自由選択部門科目を1年次より配置する。	A-2	文化に関する知識と教養を養成する科目において、基礎的な知識に加え、学修者自身の説を論述する試験等によって、その学修成果を測定する。	文化コース基礎論
	A-3	文化事象について学術的に考察するための専門知識と方法論、および文献読解に必要な語学力を修得している。	系やコースでの学修に必要な専門知識と方法論を修得するための系・コース専攻部門科目、および高度な語学力を涵養するための専門外国語部門科目を、それぞれ2年次より配置する。	A-3	文化事象に関する知識・方法論や語学力を養成する科目において、知識・方法論の叙述や、語学力を測る試験等によって、その学修成果を測定する。	日本文化史等 専門外国語
				B	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別および全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。	
	B-2	多様な媒体から信頼しうる情報を取捨選択して適切に活用できるメディア・リテラシー、および異文化理解のために必要な読解力を身に付けている。	大学での学修の前提となる基本的なリテラシーと正確な読解力を修得するための演習・卒業論文部門科目 (基礎演習) を1年次に設置する。	B-2	基礎的なリテラシーと正確な読解力を養成する科目において、毎授業回初歩的なプレゼンテーションや文献読解を行い、その都度の情報整理能力と発信力の伸長を確認し、学修成果を測定する。	基礎演習
	B-3	読書と議論を通じて自己の意見を柔軟に練り上げるための思考力と対話力、およびそれを明確かつ論理的に表現するための文章力と発言力を身に付けている。	専門的研究に必要な思索と解釈の力を養い、その表現と発信の方法を実践的に学ぶための演習・卒業論文部門科目 (導入演習) を2年次に配置する。	B-3	専門研究に必要な思考力を養成する導入演習において、毎授業回ディスカッションへの参加、または文献読解の報告を求め、その都度の思考力の伸長を確認し、学修成果を測定する。	導入演習
				C	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別および全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	
	C-2	歴史と文化についての知識と思索を踏まえて研究課題を自ら設定し、主体的に考察することができる。	自己の問題意識に基づき研究を立案・遂行するプロセスを学ぶための演習・卒業論文部門科目 (専門演習) を3年次に、現地の学修や調査を通じて異文化を体得するための自由研究科目を1年次以降に、それぞれ配置する。	C-2	研究プロセスを学び高度な思考力を養成する専門演習において、文献読解の発表やディスカッションへの参加態度、および学修者による報告書等によって学修成果を測定する。	専門演習
	C-3	現代社会における文化の役割を理解した上で、異文化間の相互交流と新たな文化の創造に寄与することができる。	学修と異文化体験の成果を学術論文へと創造的に昇華し、その今日的意義を探るための演習・卒業論文部門 (卒論演習および卒業論文) を4年次に配置する。	C-3	知識・教養と異文化体験を学術論文に昇華させ、今日的意義を探る演習科目において、専門的な視点からの評価に加え、学修者自身による自己評価および学修者相互の評価等を用いて、学修成果を測定する。	卒論演習
				D	各科目におけるレポートや研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別および全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	
D-2	自己の価値観について客観的に反省できる批判精神、および他者の文化の多様性を理解し尊重できる寛容さを身に付けている。	多様な文化を学ぶことを通じて自身のアイデンティティを常に問い直し、柔軟な世界観を養うための専攻科目 (全部門) を1年次より設置する。	D-2	多様な文化を学び、世界観を養う様々な専攻科目において、既存の秩序への批判精神や、多様性を寛容する態度の修得を、科目個別の測定方法によって測定する。	文化創造論等	
D-3	学術を単なる手段とみなすことなく、文化を学ぶこと自体に喜びを見出し、その愉悅を他の人々と共有することができる。	教員による研究成果を教育現場へとフィードバックし、学生の知的好奇心と探求心を刺激し鼓舞するための専攻科目 (全部門) を1年次より設置する。	D-3	知的好奇心と探求心を養成する様々な専攻科目において、文化を学ぶことの喜びを見出し、それを他者と共有しているかどうかを自己評価や相互評価により測定する。	文化のダイナミズム 等	